



独立行政法人 国立病院機構

四国子どもととなの 医療センター

アートプロジェクト

—今月のショット—



2016年 6月号

—院内の小さな声から—

園芸療法を取り入れて、利用者さんに野菜や花を育てる喜びや、収穫する楽しさを味わってもらったり、様々なものづくりのワークショップも体験できます。利用者さんがいくつかのメニューの中からその日自分がしたいことを選択できたりもします。以前施設を見学させていただいた時、広い窓から入ってくる自然の風の中で言葉がたくさん飛び交っているのが印象的でした。畑のこと。絵のこと。昨日のこと。スタッフと交わされる会話の種類がとにかく多いのです。この場所での体験がスタッフと共有され、継続している。個人が尊重されている証拠だと感じました。後日感謝のメールをお送りするとスタッフの石神さんは、手伝ってくれた皆さんの前でそのメールを読み上げてくださったそうです。途中で涙がこぼれて読めなくなると、利用者の皆さんが拍手喝采でこたえてくれたといいます。「デイサービスに来られる利用者の皆さんは、介護は必要になっているけれど、まだまだ出来ることがあると思っています。その出来る事が引き出せて、こうやって喜んで下さった言葉を伝えることができる！！これが理想の形かも…って、今日感じる事が出来ました。」(石神さんのメールより)石神さんの見ている未来の「デイサービス」や「介護」の風景を垣間見せていただいたような気持ちになりました。「あなたにはまだ出来ることがある。」利用者さんの力を信じる石神さんのまなざしはいつも「いのち」を励ましています。

梅雨の季節の贈り物

七夕、大阪府高槻市にあるデイサービスセンター晴耕雨読舎さんから段ボール箱いっぱいの贈り物が届きました。一つ一つちゃんと袋に入れてメッセージカードがついた小さなギフトです。「利用者の皆さんが手伝ってくださったものです。院内にあるニッチの中に入れて患者さんにプレゼントしてください。」と書いてあります。デイサービスに来られたお年寄りの方々が楽しそうにギフトを制作している写真も添付されています。ギフトは2種類のメモクリップ。一つはお家のかたちをした木片にペンキで色が塗られ、屋根には小さな鳥がとまっています。その鳥はワイヤーでできていてメモが挟めるという繊細な仕掛けのものです。もう一つはまるで砂糖菓子のようにカラフルな和紙で作られたあじさいの上に、細いワイヤーで作られたカタツムリがちょこんと乗っています。あじさいの下には磁石が隠れているのでワイヤーのカタツムリがぴったりと張り付いて、メモクリップの役割を果たしています。どちらもこのままお店で売れそうなくらい素敵な作品です。園芸療法士でワイヤー作家の奥田由味子さんとのコラボだそうです。ちょうどボランティア控え室にいたスタッフはその心のこもった贈り物を見て「こんなももらったら嬉しくて病気のこと忘れるわ！」と大興奮。コンシェルジュさんは「すぐにニッチにいれてあげてもいいですか？ちょうどお見舞いに小さな女の子が来ていてさっきもニッチを覗いていたから。見つけたら絶対喜ぶとおもう！」と嬉しそうです。こんな風に全国各地から届けられるギフトは、患者さんを喜ばせる前にまずは私たちスタッフを元気にしてくれるのです。晴耕雨読舎さんは「現代社会の中で人と自然の関係性を見直し、人と自然が共生する新しいライフスタイルを提案、創造すること」を使命として独自のサービスを提供されています。(左につづく)



今月一枚

薔薇

作家名：赤木 範陸